

自己呈示1 確認テスト

• 問題1

「自己呈示」という行為を説明する以下の文章のうち、間違っているものを1つ選び、その記号を にマークせよ

1. 一貫して同じような自己呈示をするよりも、時に違う自分を演出することが好感度を上げることがある
2. 自己呈示によって表現される自分は、常に本当の自分と一致しているとは限らない
3. 自己呈示とは、他者から見られる印象を演出することを意図した行為である
4. 自己呈示をおこなうことによって、人から抱かれるイメージを自由自在に操作することができる
5. 日本人は、欧米人よりも、自己宣伝的な自己呈示をおこなう傾向が低い

• 問題2

次の行為は、以下の選択肢のうちどの自己呈示方略に当たるか。適切なものを選び、その記号を にマークせよ

「対人心理学I」は面白くなさそうだがとりあえず単位は欲しい。どうやら平常点がいくらかあるようなので、大福帳のコメント欄に毎回「先生、今日のファッションいいですね！」と書いてみることにしよう。

- (1)自己宣伝 (2)哀願 (3)威嚇
(4)取り入り (5)示範

• 問題3

次の行為は、以下の選択肢のうちどの自己呈示方略に当たるか。適切なものを選び、その記号を にマークせよ

今日は彼女との初デート。気合いを入れてイタリアンレストランに来てみた。運ばれてきた料理を見ると、なんと髪の毛が！早速ウェイターを呼びつけて怒りまくり、会計をタダにさせてやった。きっと彼女も僕を「頼もしい人ね!!」とってくれたに違いない

- (1)自己宣伝 (2)哀願 (3)威嚇
(4)取り入り (5)示範

• 問題4

次の会話文のうちXが「自己宣伝」的な自己呈示をおこなっているのはどれか。適切なものを選び、その記号を にマークせよ

- (1)
A「今度の数学のテスト、何点だった？」
X「数学のテスト、95点だったよ」
(2)
A「数学のテスト、100点だったよ」
X「数学のテスト、95点だったよ」
(3)
A「期末試験も終わって、一段落したねえ」
X「数学のテスト、95点だったよ」

• 問題5

戦術的自己呈示と戦略的自己呈示はどう違うか。正しく説明している文章を選び、その記号を にマークせよ

1. 戦術とは個々の作戦場面で使う戦闘の方法であり、戦略とは個々の戦術を統合して使用する際の基本的原則である
2. 戦略とは個々の作戦場面で使う戦闘の方法であり、戦術とは個々の戦略を統合して使用する際の基本的原則である
3. 戦術とは自ら行動に出るタイプの戦闘の方法であり、戦略とは自らを守るタイプの戦闘の方法である
4. 戦略とは自ら行動に出るタイプの戦闘の方法であり、戦術とは自らを守るタイプの戦闘の方法である

自己呈示2 確認テスト

• 問題1

以下の選択肢から、「戦術的防衛的自己呈示」にあてはまらない自己呈示方略を1つ選び、その記号を にマークせよ

- (1)否認 (2)哀願 (3)セルフ・ハンディキャッピング
(4)正当化 (5)釈明

• 問題2

釈明という自己呈示方略のうち、少なくとも部分的には自分の責任を認めた上で、行為そのものの否定的意味合いを弱めようとする方略のことを特に何というか。適切なものを1つ選び、その記号を にマークせよ

- (1)謝罪(譲歩) (2)弁解 (3)正当化
(4)否認 (5)哀願

• 問題3

次の記事における前宝塚市長の行為は、以下の選択肢のうちどの自己呈示方略に当たるか。適切なものを選び、その記号を にマークせよ

「便宜を図る気なかった」 釈明に賛成、市民ら反発(2006/04/27神戸新聞)

収賄罪に問われた前宝塚市長の渡部完被告(47)は、神戸地裁で二十七日にあった初公判で、パチンコ店や産廃業者の元社長から受け取った現金について収賄の事実を認めながらも、「便宜を図るつもりはまったくなかった」「市長就任のお祝いの意味合いが多分に含まれていると思った」などと釈明を繰り返した。傍聴した市民からは「反省の色が見えない」と批判の声が上がった。「市民の信頼を傷つけて申し訳ない。謝罪の言葉は、法廷にむなしく響いた。

- (1)謝罪(譲歩) (2)弁解 (3)正当化
(4)否認 (5)哀願

• 問題4

次の会話文のうちXが「セルフ・ハンディキャッピング」的な自己呈示をおこなっているのはどれか。適切なものを選び、その記号を にマークせよ

- (1)
A「明日のマラソン大会、頑張らないとね」
X「うん、毎日2kmの走り込みしてるんだ」
(2)
A「明日のマラソン大会、頑張らないとね」
X「うん、1人だと寂しいからずっと一緒に走ろうね!!」
(3)
A「明日のマラソン大会、頑張らないとね」
X「うん、実は昨日から風邪気味で、調子悪いんだよね」

• 問題5

BIRGingとCORFingはどう違うか。正しく説明している文章を選び、その記号を にマークせよ

1. どちらも直接的な自己呈示で、BIRGingは、価値ある他者の栄光を借りて自分も価値ある人間だとする方略、CORFingは価値のない他者との縁を切ることで自分の価値を否定しないようにする方略である
2. どちらも間接的な自己呈示で、BIRGingは、価値ある他者の栄光を借りて自分も価値ある人間だとする方略、CORFingは価値のない他者との縁を切ることで自分の価値を否定しないようにする方略である
3. どちらも直接的な自己呈示で、BIRGingは、価値のない他者との縁を切ることで自分の価値を否定しないようにする方略、CORFingは価値ある他者の栄光を借りて自分も価値ある人間だとする方略である
4. どちらも間接的な自己呈示で、BIRGingは、価値のない他者との縁を切ることで自分の価値を否定しないようにする方略、CORFingは価値ある他者の栄光を借りて自分も価値ある人間だとする方略である

自己呈示3 確認テスト

- 問題1
非言語コミュニケーション(NVC)にはさまざまな種類がある。以下の選択肢から、NVCにあてはまらない対人コミュニケーション・チャンネルを1つ選び、その記号を にマークせよ

(1)発言の間(ま) (2)プロクセミックス (3)部屋の温度
(4)発言の内容 (5)発言時間

- 問題2
NVCに関する以下の説明文のうち、正しくないものを一つ選び、その記号を にマークせよ

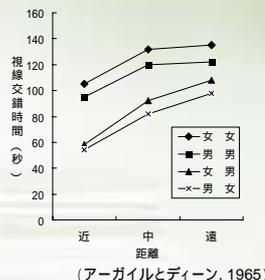
- 話し手は、情報に関する具体的なイメージを受け手に伝えるためにNVCを使うことがある
- 医師が患者を触診するといった行為も、広い意味ではNVCに該当する
- コミュニケーションの流れ全体に関わるNVCの要素として、**発話の交替を促すなどの相互作用の調整機能がある**
- 話し手は、NVCを効果的に組み合わせて使うことによって、親密さの感情を相手に伝える工夫をしている
- 集団でリーダーシップを発揮したいと思う場合に有効なNVCがある

- 問題3
コミュニケーションの多段階機能変容モデル(大坊, 1990)について、正しい記述を以下の選択肢から1つ選び、その記号を にマークせよ

- 対人的な親密さが増せば増すほど、コミュニケーションの直接性は増大する一方である
- コミュニケーションの直接性とは、「何でも直接会って話す」程度のことを指す
- 非常に安定した関係では、コミュニケーションの直接性はむしろ低下する**
- 対人的な親密さとコミュニケーションの直接性は、U字型の関係にある

- 問題4
右のグラフから分かることについて、左の選択肢の中から正しくないものを1つ選び、 にマークせよ

- 親密性の平衡を保つため、対人距離が遠くなると視線交錯時間も減らそうと努力している**
- ペアが同性同士でも異性でも、対人距離が遠くなると視線交錯時間が長くなる
- 異性ペアでは、視線交錯時間が同性ペアよりも全体的に短い傾向がある
- 対人距離が遠ざかると親密性が減ることが危惧されるため、視線を多くやりとりしてそれを補完している



- 問題5
コミュニケーションにおける欺瞞を検出するためには、相手のどこに注目するとよさそうか、右のデータを見て、左の選択肢からもっとも適切なものを1つ選び、 にマークせよ

- 顔の表情や視線
- 体全体の動作
- 発言内容や話し方
- 手や足の動き**

NVC	正答(%)	総選択(%)
胴体の動作	15 (56)	27 (20)
脚の動き	15 (83)	18 (13)
発言時間	18 (40)	45 (34)
顔の表情	23 (50)	46 (34)
視線	28 (60)	47 (35)
手の動き	34 (90)	38 (28)
発言内容	39 (59)	66 (49)
話し方	46 (58)	79 (59)

対人魅力1 確認テスト

問題1

ダットンとアロンの吊り橋実験の結果を記述した文章として正しいものを1つ選び、その記号を にマークせよ

- (1)橋を渡っている人は橋の種類によらず不安を感じており、誰に話しかけられてもそれを好意と勘違いする傾向があった
- (2)電話番号を受け取った割合と橋の種類には関連があった
- (3)女性に話しかけられた男性は、男性に話しかけられた女性よりも、事後に電話する割合が高かった
- (4)吊り橋を渡るといふ恐怖感による興奮状態が、異性に対する愛情によるものと誤って帰属された

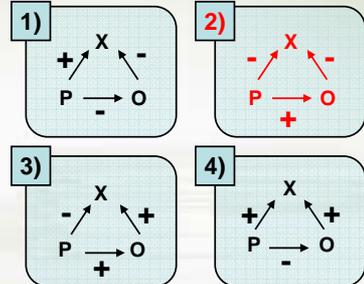
問題2

ある日、森の中をキツネが歩いていると、おいしそうなブドウの実がなっている木があった。飛びついてブドウを取ろうとしたが、どうしても取れない。とうとうあきらめたキツネは... どういうと「認知的不協和の解消」になるか、適切な1つを選んで にマークせよ。

- (1)くっそー、どうしても取ってやる。そうだ、キリンさんと呼んできたらいいいんだ!!
- (2)ふん、あんなブドウどうせちっとも熟してなくて喰ってままずいに決まってるぁ!!
- (3)あんなブドウ一つ取れない俺って、なんて情けないんだ(涙)
- (4)そうだ、俺イチゴの実持ってた。こっち喰お喰お。

問題3

次の図のうち、P:自己、O:他者、X:事象がバランス状態で、自己が他者に好意をもっているのはどれか、適切な1つを選んで にマークせよ。



問題4

対人魅力と自己評価の関係について、正しい記述を1つ選び、その記号を にマークせよ

- (1)対人魅力とは、他者をどう評価するかの問題なので、自己評価とはあまり関係がない
- (2)自己評価が低下した時は、人とうまく接する自信を喪失し、人が示してくれた好意をなかなか信用できず、人を好きになりにくい
- (3)自己評価が低下した時は、人から承認されたい欲求が高まり、好意を示してくれた人に大きな魅力を感じる
- (4)自己評価が高まっている時は、他者を認めたい欲求が高まり、人を好きになりにくい

問題5

「コンピュータ・デート実験」の結果を正しく記述しているものを1つ選び、その記号を にマークせよ

- (1)身体的魅力度の高い人は、常に高い好意を持たれていた
- (2)回答者は、好意度の評定の際に、自分と相手の身体的魅力のバランスを非常に考慮していた
- (3)男性と女性では、相手の魅力度による好意度の評定に著しい違いがあった
- (4)女性の方が異性に対する好意度に相手の身体的魅力が大きく関係していた

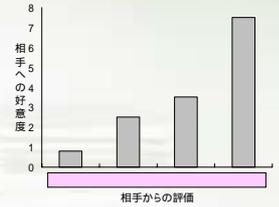
	回答者の身体的魅力度	相手の身体的魅力度	
		低	高
相手への好意度	男性低	.06	.90
	男性高	-.62	.82
	女性低	.03	.96
	女性高	-.13	.89

対人魅力2 確認テスト

問題1

賞賛が対人魅力にもたらす影響に関するアロンソンとリンダーの実験の結果を記述した文章として正しいものを1つ選び、その記号を(21)にマークせよ

- (1)他者からの誉め言葉は必ずその人への好意につながる
- (2)他者からけなされることの影響力は強力で、後で誉められても好意は回復しない
- (3)批判してくれる人は貴重なので、そういう人に対する好意度は増す傾向がある
- (4)けなされた後の褒め言葉はより信憑性が高く受け取られ、好意につながる



問題2

単純接触理論にしたがえば、下の写真に対する好みはどのような傾向を示すか。正しいものを1つ選び、その記号を(22)にマークせよ

- (1)写真に写っている本人はa)、友人たちはb)
- (2)写真に写っている本人も、友人たちもa)
- (3)写真に写っている本人はb)、友人たちはa)
- (4)写真に写っている本人も、友人たちもb)



a)普通に撮った写真



b)普通に撮った写真を左右反転させたもの

問題3

恋愛関係進展の5段階モデルを、80年代 00年代で比較すると何がいえるか。以下の文章から正しくないものを1つ選び、その記号を(23)にマークせよ

- (1)関係の始まりは友愛的な会話であることは特に変化がない
- (2)2000年代になると、性的関係から交際が始まる関係が主流になっている
- (3)携帯電話の普及により「用もないのに電話する」ことが比較的關係の初期段階で起こるようになった
- (4)1980年代は婚約や結婚など関係を広く公にすることと性的関係の結びつきが今よりも強かった

問題4

現代の若者の恋愛関係の現状を示す文章のうち、正しくないものを1つ選び、その記号を(24)にマークせよ

- (1)特定の異性と交際している人の割合は、男女とも増加傾向にある
- (2)異性と交際している人 = 良い人というステレオタイプが強固になりつつある
- (3)特定の異性と交際していない人の割合は、交際している人の割合よりも男女とも少ない
- (4)特定の異性と交際している人の割合は、現状よりも高く見積もられる傾向がある

問題5

次のうち、スタンバーグの愛情の三角理論を正しく説明している文章はどれか。その記号を(25)にマークせよ

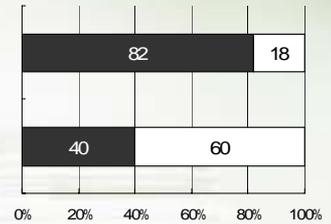
- (1)相手に対する好意と、関係の継続に関する契約がある関係を「恋愛(romantic love)」とよぶ
- (2)相手に対する好意も、情熱もないが、情性で続いているような関係はまるで「うつろな愛(empty love)」である
- (3)情熱とは、友情や親近感、信頼感と結びつく感情である
- (4)スタンバーグは愛情を3つの要素に分け、それらによって愛を9つに類型化した

対人魅力3 確認テスト

問題1

嫉妬の性差に関するパスらの研究(1992)で得られた結果を図に示している。それぞれの図要素が示すものの正しい組み合わせを1つ選び、その記号を(26)にマークせよ

1. 上が男性, 下が女性, 白棒が肉体的浮気, 黒棒が精神的浮気
2. 上が男性, 下が女性, 白棒が精神的浮気, 黒棒が肉体的浮気
3. 上が女性, 下が男性, 白棒が肉体的浮気, 黒棒が精神的浮気
4. 上が女性, 下が男性, 白棒が精神的浮気, 黒棒が肉体的浮気



問題2

親密な関係の崩壊プロセスを示す文章のうち、ダックの4段階に**したがっていない**記述を1つ選び、その記号を(27)にマークせよ

1. 関係の崩壊は、パートナー同士いずれかの個人内での、関係に対する問題意識の芽生えから始まる
2. 関係の崩壊は、個人内の問題から、徐々に個人間、集団内の問題へと拡大していく
3. 関係の崩壊プロセスには、最終的に互いが関係に関する思い出を処理する段階まで含まれる
4. 関係の崩壊は、**パートナー内で関係に関する問題が共有される時点から始まっている**

問題3

失恋というストレス状況への対処行動に見られる特徴と性差を示す文章のうち、正しいものを1つ選び、その記号を(28)にマークせよ

1. 失恋からの回避行動(別の異性への接近や肯定的解釈など)は、かえってストレス解消を遅らせる
2. 失恋という出来事を回避する行動をする割合は男性より女性が、相手を拒絶する行動をする割合は女性より男性が多い
3. 失恋に対して未練がましい傾向があるのは男性よりも女性である
4. **失った恋にいたずらに未練をもつことは、失恋というストレスに自らを閉じこめることになりかねない**

問題4

若者の失恋からの回復を示すデータの解釈のうち、正しいものを1つ選び、記号を(29)にマークせよ

1. 1985年の方が、2005年よりも失恋からの回復期間の性差が顕著である
2. 全般的に見て、失恋からの回復期間は現代の方が長くなっている傾向がある
3. 調査時期によらず、男性より女性の方が失恋からの回復期間が短めである
4. 調査時期によらず、調査対象の過半数は、失恋後半年以内にショックから回復したと回答している

	深見・鹿野(1985)			加藤(2005)		
	回復期間	男性	女性	回復期間	男性	女性
~1ヶ月	8.2	0.0	~1ヶ月	48.6	37.4	
1~4ヶ月	38.4	32.6	2~4ヶ月	23.5	21.4	
4~10ヶ月	20.5	16.3	4~10ヶ月	11.0	18.2	
10ヶ月~3年	26.0	44.2	10ヶ月~3年	15.4	19.3	
3年以上	6.9	6.9	3年以上	1.5	3.7	

問題5

先週資料「別れを言い出した人」のデータを見て、その解釈のうち、**正しくない**ものを1つ選び、記号を(30)にマークせよ

1. ダックの「関係の段階」を経て、どちらかが切り出した別れに双方納得して本格的な別離に至るケースが少なからず見られる
2. 別れを言い出した人の割合は「切り出した時」については性差があるが、「最終的」にはその差はなくなっている
3. 女性は「自分(女性)が別れを切り出し、最終的にも自分(女性)が決めた」と回答する人の割合がもっとも多い
4. 男性は「相手(女性)が別れを切り出し、最終的にも相手(女性)が決めた」と回答する人の割合はあまり多くない